



SUPER GT 2026 OKAYAMA Official Test

2026年シーズン初の公式テストは
昨シーズン後半の好調さを維持して
各セッションで好タイムをマーク

日付：3月6-7日
天候：曇り
コース：岡山国際サーキット
セッション1. 気温10℃、路面温度15℃
セッション2. 気温6℃、路面温度13℃

ディーラーチームの先駆けとして2014年からSUPER GTに参戦を続けているLMcorsa。昨シーズンは4年間をともに戦ってきたGR Supra GTからLEXUS LC500 GTにマシンをチェンジした。GR Supra GTと同様にGT300規定に基づき製作されたこの車両は、高速コーナーでの安定性や性能が向上し、シーズン後半にかけてマシンの本領を発揮させた。第6戦のスポーツランドSUGOで2021年以来となる優勝を手にして、高い競争力を披露。シーズンを通してマシンの熟成が進み、チームは確かな手応えを得て2026年シーズンを迎えることとなった。

オフシーズンには毎年のこととなるが車両を完全に分解し、各部の点検およびメンテナンスを徹底して実施。基本的なパッケージは昨シーズンの仕様を踏襲し、大きな仕様変更は行わず、昨年の後半戦で見せた好調な状態を維持することを主眼とした準備が進められた。チーム体制は2月の大阪オートメッセで発表された通りで、吉本大樹選手と河野駿佑選手のコンビで戦う。

2026年シーズンの走り始めとなったのは、SUPER GT公式テスト前の3月4日、5日に岡山国際サーキットで行なわれた特別スポーツ走行での事前テスト。この2日間は、チームに加入して7年目となる河野駿佑選手がLC500 GTのステアリングを握った。

そして3月6日(金)、7日(土)の2日間は、AUTOBACS SUPER GT 2026 SERIESの幕開けとなる公式テストで、GT500クラスの14台と、GT300クラスの28台が参加。



SUPER GT 2026
OKAYAMA
Official Test



今回の公式テストでは開幕戦の1ヶ月前ということで、装着するダンロップタイヤの比較テストを中心とした走行プログラムが組まれていた。さまざまなコンディションやセットアップのなかでタイヤの特性を確認し、開幕戦に向けたデータ収集を行なうことが狙いとなる。

6日午前に行なわれたセッション1は、曇り空ながらドライコンディションとなり、気温10℃、路面温度15℃と低温のなかでの走行となった。まずは河野選手がウォームアップを行なうと、公式テストからチームに合流した吉本選手がLC500 GTのステアリングを握った。岡山国際サーキットはLC500 GTと相性の良いコースではないが、26周目にはベストタイムとなる1分24秒919を記録し、2番手に0.5秒の差をつけてトップタイムとなった。

午後のセッション2も曇り空のドライコンディションとなったが、気温は6℃、路面温度13℃とさらに低い状況となった。LC500 GTはセッション1の終了後に、車両にトランスミッションのトラブルが発生。チームはピットでトランスミッションの積み替えを実施することとなった。決して簡単な作業ではないが、メカニックたちは迅速に作業を進め、3時間ほどでトラブルを解消。セッション2の開始から1時間は走行ができなかったものの、マシンは無事コースへ復帰した。

その後はタイヤのウォームアップに注意を払いながら周回を重ね、主にタイヤデータの収集を目的としたテストを続行。セッション2では30周を周回し、ベストタイムは1分26秒790を記録した。公式テスト2日目となる3月7日(土)には、9時から11時までの2時間でセッション3が行なわれた。



SUPER GT 2026
OKAYAMA
Official Test



セッション中に2度の中断があり、走行時間は最終的に11時20分まで延長された。昨夜から朝方に降った雨の影響で路面はウエットコンディションとなり、レインタイヤの使用が可能なウエット宣言が出された。

2日目の走り出しも、河野駿佑選手がLC500 GTのステアリングを握りコースイン。9時50分まで走行した後、吉本大樹選手へとドライバー交代を行った。吉本選手はセッション3の終了後に実施されたセーフティカー訓練まで走行を担当し、周回を重ねていく。結果的に50周を走行し、47周目にベストタイムとなる1分25秒216をマーク。GT300クラス28台中2番手のタイムとなり、初日から続く好調なパフォーマンスを示した。

1回目の公式テストを締めくくるセッション4は、14時から16時までの2時間で行なわれた。コースアウトした車両の回収やコース上のオイル処理のため3回の中断、途中でみぞれが降るなどもあり荒れた展開となった。吉本選手が最初にLC500 GTのステアリングを握って11周を走行。その後は河野選手にドライバー交代し、セッション終了まで周回を重ねた。2人のドライバーは合計35周を走行し、ベストタイムは吉本選手が記録した1分26秒098。GT300クラスで10番手のタイムとなった。

事前テストを含めて4日間の走行機会を得たLMcorsaは、2人のドライバーにより多くのマイルージを稼ぎ、開幕戦に向けて貴重なデータを積み重ねた。

次回の公式テストは1週間後の3月15日(日)、16日(月)に富士スピードウェイで実施され、いよいよ2026年のSUPER GTは4月11日-12日に開幕戦を迎える。





Team comment



Driver : 吉本 大樹

昨年はLC500 GTのデビューイヤーで、セットアップも部品も色々トライ&エラーがありました。シーズン後半は結果も付いてきてマシンの熟成が進みました。今回の公式テストが、私にとってシーズンの初走行だったので、かなりの進化を感じています。2日間を通してタイヤの比較などを行なって、良い部分がありました。1ヶ月後の開幕戦とはコンディションが異なるので、同じような勢力図にはならないと思いますが、正しいタイヤ選択ができれば上位で戦えそうな感触があります。次回の富士スピードウェイでの公式テストでも周回を重ねて、開幕戦から好結果を求められるようにしていきます。



Driver : 河野 駿佑

3月4日からの特別スポーツ走行を含めて4日間のテストができました。昨年はシェイクダウンして間もなく公式テストだったので、そのときと比べてマシンの大きな進化と熟成を感じています。天候が悪かったり気温や路面温度が低かったりと、開幕戦を想定したテストにはなっていませんが、マシンのバランスは非常に良いです。まわりのマシンがどのような状態で走っているかわかりませんが、各セッションでも上位に入っているので良い方向に進んでいるはずで、来週には富士スピードウェイでの公式テストがあるので、想定したテストメニューを確実に消化して、開幕戦に向けて万全の準備を行ないたいと思います。